月経不順が将来の生活習慣病に与える影響についての研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-01-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: KOMURA, Hiroko メールアドレス: 所属:
URL	https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/3927

BY-NC-ND

月経不順が将来の生活習慣病に与える影響についての研究

児童学部　児童学科／大学院人間科学研究科　人間栄養学専攻　甲村　弘子

1、はじめに

若年女性における月経不順のような、女性ホルモン分泌の低下をきたす患者における骨代謝や脂質代謝について検討し、女性の生涯にわたって骨粗鬆症や動脈硬化を予防するという観点から、若年女性の月経不順が将来の生活習慣病や骨粗鬆症に与える影響を明らかにすることを目的として研究を行った。

本研究では月経不順を示す代表的な疾患であるターナー症候群（Turner's syndrome: TS）を対象とした。本症は低身長、性腺機能不全を主徴候とする疾患である。小児期には低身長に対して成長ホルモン治療が行われ、続いて思春期からは性腺機能不全に対して女性ホルモン補充療法が行われるのが一般的である。しかしながら TS では甲状腺機能低下症、難聴、骨粗鬆症などを多く認め、心血管系の合併症や泌尿器系、消化器系の合併症が多いことも知られている。したがって、成人 TS を診療する際には、女性ホルモン補充療法を継続して行うことと、このような合併症に注意を払うことが重要である。本研究では TS の月経不順が将来の生活習慣病に与える影響について検討した。

2、研究計画とその方法

対象は 20 歳以上の TS79 例で、平均年齢は 32.1±8.7 歳である。診療録を後方視的に検索し、BMI、血圧、血糖、血清脂質（中性脂肪、総コレステロール値）、肝機能、甲状腺機能について検討した。さらに、心疾患の精査（心エコーなど）や骨量測定（DXA 法）についても検討した。本研究は当該機関の倫理審査を経た。

3、結果

平均身長 145.8cm、平均体重 46.3kg、平均 BMI 21.8 であった。BMI≧25 の肥満症例は 14 例（18.4%）に認め、平均 BMI は同年齢の女性よりやや高かった。血圧に関しては BP140/90 以上と 130/85 以上 140/90 未満にわけて調べた。140/90 以上の高血圧は 1.3%、130/85 以上は 11.4%でありその割合は高くはなかった。15.9%に高 TG 血症、40%に高コレステロール血症を認め、脂質異常の割合は高かった。耐糖能異常は 6.1%であり、高血圧、耐糖能異常は比較的少なかった。肝機能異常は 35.9%にみられたが、軽度のものが多く治療を要するものはなかった。骨量減少を 36.7%、骨粗鬆症を 22.4%に認め、両者を合わせると最も多い合併症であった。甲状腺機能異常は 22.9%に認め高率であった。心血管異常は 12.5%にみられた。

4、考察・結論

本研究では、合併症として最も多かったのは骨粗鬆症であった。本症では骨量が低く骨折をきたしやすい。次に甲状腺機能低下症を高頻度に合併する。さらに大動脈縮窄症などの先天奇形がみられ、大動脈瘤破裂は本症の突然死の原因として要注意である。また高血圧、糖尿病、高脂血症があり、これらは動脈硬化症、虚血性心疾患のリスクファクターとなる。

TS は様々な医学的問題をかかえ生涯にわたるケアを必要としている。小児期から思春期にかけての成長ホルモン治療を終了した後も継続的な医学的対応を受けるべきである。早期からのエストロゲン補充療法は骨粗鬆症の発症を防ぐことが可能であるし、心血管系の合併症に留意すれば TS の死亡率を下げることができる。このように種々の合併症に専門家が対応することにより TS 女性の QOL を高めていくことが望まれる。